猟官運動

勝海舟

併し、何にせよ今度の政変は、第二維新だ。猟官の噂もだんだん聞くが、考へて見れば、是れも無理はない話しさ。それは御一新の際には、武士が皆な家禄を持つて居たから遊んで居ても十分食へたのだ。尤も脱藩の浪士などの間には、不平家も少しはあつたが、大抵な人は所謂恒の産があつたから、そんなに騒がなくつてもよかつたのだ。西郷などは、固より例外だが、それは流石に立派なもので、幕府が倒れた時に、最早平生の志を遂げたのだからこれから山林にでも引き籠つて、悠々自適、風月でも楽んで、余生を送らうと云ひ出した位だ。処が今の政党員は、多くは無職業の徒

だから役人にでもならなければ食へないのさ。だから
それは猟官もやるがよいが、併し中には何んの抱負も
ない癖に、つまり財政なり外交なり、自分の主張を実
行するために、就官を望むのではなくて、何んでも善
いから月給に有り就きさへすればよいといふ風な猟官
連は、それは見つともないよ。

底本：「日本の名随筆　別巻95　明治」作品社
１９９９（平成11）年1月25日第1刷発行
底本の親本：「亡友帖・清譚と逸話　〔復刻原本＝海舟全集第十巻〕」原書房
１９６８（昭和43）年４月20日
入力：ふろっぎぃ
校正：浅原庸子
２００６年2月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、

校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。